



联合国
粮食及
农业组织

FOOD AND
AGRICULTURE
ORGANIZATION
OF THE
UNITED NATIONS

ORGANISATION
DES NATIONS
UNIES POUR
L'ALIMENTATION
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION
DE LAS NACIONES
UNIDAS PARA
LA AGRICULTURA
Y LA ALIMENTACION

منظمة
الاغذية
والزراعة
للأمم
المتحدة

Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101
Facsimile: (045) 222-1103
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO (国際連合食糧農業機関) 日本事務所
2011年2月2日

LOJAPR11/7-No. 188

プレスリリース

国際森林年がスタート：国連が森林セクターに革新的な行動を求める

2011年2月2日ニューヨーク/ローマ：森林に依存している何百万人もの人々は、世界の森林の持続的な管理・保護・発展の為に極めて重要な役割を果たしているが、外部の世界は、しばしば、森林資源を活用し、利益を得るといった地元の人々の権利を過小評価していると本日ニューヨークでの国連国際森林年開始式典で発表されたFAO (国連食糧農業機関) 世界森林白書で述べられている。

「国際森林年で我々がなすべきことは、人と森林の関連性、そして、森林が地元の人々に持続的、かつ、革新的な方法で管理されることによって得られる利益を強調することである。」とエドアルド・ロハス FAO 林業局長は述べた。

「より緑な」経済へ向けて

社会的・環境的持続性への関心が高まっているが、これは林業にとっては、木を伐採することは倫理的に良くないと思い、木を使うことにしばしば罪悪感を抱いてしまう消費者の木製品に対する貧弱な一般的認識を変え、21世紀の要求に応えることができるように林業の革新と再構築を進めるというユニークな課題をつきつける。

FAOの報告書は、むしろ、林業は「より緑な」経済の重要な一部であり、木製品は環境への貢献もあるということを人々に訴える必要があると強調している。天然の素材としての木や木製品は、炭素を蓄え、リサイクルの可能性の高い再生資源から作られている。

林業は、持続的な資源利用を進め、より多くの廃棄物利用の製品を生み出すとともに、エネルギー効率を向上させ、排出量を削減する等多くの環境的・社会的関心事項に対応している。例えば、2010年の全木製品の37%は、再生紙、木製廃棄物、非木質繊維を利用しており、この数値は、2030年には、特に中国やインドでの成長を受けて45%にまで伸びると見込まれている。

その上、例えばひきたて材や合板などの頑丈な木製品の多くは、それをつくるのに比較的少量のエネルギーしか必要としない。このため、木製品及びその利用による「カーボン・フット・プリント」が低いということになり、更に、木製品の炭素蓄積の性質により、一層この傾向が強まるのである。パルプや紙製品はよりエネルギー集約的であるが、技術改良や排出権取引を通じてそのエネルギー利用量・二酸化炭素排出量を削減するように圧力が高まっている。

多くの政府は、林業は、バイオエネルギー、木材推進活動、木を使った新しい製品やバイオマテリアルの利用を含めた「より緑な経済」を推進する大きな可能性を持っていると考えており、多くの先進国もここ数年は林業の発展のための支援を増大させている。

REDD+ 地元関心事項への対処の必要性

FAOの報告書では、また、気候変動に直面している地域の生活を維持するという森林の価値を守るために緊急の行動が必要であると強調している。

2010年12月にカンクンで行われたREDD+ (Reducing Emission from Deforestation and Degradation、森林減少・劣化に由来する二酸化炭素の排出の削減)に関する決定は、広範囲な森林統治改革と連携し、先住民・地元コミュニティの参加も確保すべきである。彼らの権利は、国のREDD+活動・戦略の中で尊重されるべきであると報告書は勧告した。

国家は炭素の権利を明確にし、REDD+スキームから生まれる費用・利益の分配が公平になるような法制度を採択する必要があると報告書は述べている。

適応戦略は過小評価されている

REDD+の森林緩和活動は多大な注目・資金を集めている一方、気候変動への適応という面での森林の果たす役割は極めて重要であるにもかかわらず、政府によってしばしば過小評価されている。報告書では、森林が国家適応戦略達成に貢献する重要性を強調している。

林業関連措置は、極めて脆弱なエコシステムや社会セクターへの気候変動による影響を軽減することが出来る。例えば、マングローブの茎の伐採(1980年以降、世界でその1/5は失われている)によって、より頻繁に、かつ、より深刻になっている嵐や津波から海岸線を守ることが出来る。環境保護や収入の為に植林することは、旱魃への適応力をより高めるということで、乾燥した国の貧しい人々を支援することが出来る。発展途上国の例では、バングラデシュのマングローブ開発・保護、サモアの山火事防止策、ハイチの森林再生プログラム等がある。

報告書は、森林、農村生活、そして環境の安定性は緊密に関連していることから、林業関連対応措置への大幅な財政支援が必要であるとしていると強調している。

「このような地域レベルでの懸念事項への配慮がなされなければ、伝統的生活様式の崩壊、そして、最も生物学的に多様で環境的にも重要な世界の森林が蝕まれる危険がある」と報告書は述べている。

英文URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/50437/icode/>